



希望の春～令和6年度の終わりに～

校長 芝原 にはほ

まさしく「光陰矢のごとし」。まもなく、令和6年度も終わろうとしています。今年度、何度、口にしたか分からない「不安だらけのスタート」でしたが、今、振り返ると、大変充実した1年間だったと思います。それもこれも、子ども達自身が学校生活を充実させるべく、考え行動したからだだと思います。もちろん、そこに、保護者や地域のみなさんのお力添えがあったことは間違いありません。私たち学校職員は、子ども達に引っ張られてやってきたような気がします。このことは、「明るく素直だけれど、やや、受動的で覇気に欠ける」という印象だった南界小の子どもたちが大きく成長した証だと思います。特に、4月に「私たち最高学年」というタイトルの作文が、南日本新聞の若い目欄に掲載された5年生5人の頑張りには、心から敬意を表したいと思います。そして、その5人は「なかたねの子」の表彰を受けました。受賞内容は、右表のとおりです。2年続けての最高学年ということになりますが、来年度もがんばってほしいと思います。



勤労奉仕賞：中嶋 結
親切友情賞：田畑 花菜
体育賞：黒木 月菜
学芸賞：山下 創大
読書賞：提 聡一朗



今年の充実した令和6年度を振り返ってみると、様々な出来事がありました。

10大 ニュース

- ①久しぶりに復活、南界園訪問
- ②今年から始めました、月1回の読み聞かせ
- ③ニューヨーク在住ピアニストとの出会い＝夢実現講座
- ④古市家塾、復活！
- ⑤町内在住語り部による平和学習
- ⑥思い出深い雨の運動会
- ⑦手紙を喜んでもらった敬老会
- ⑧久しぶりに燃えました、町民体育祭
- ⑨身近にこんなところが…考古学出前授業
- ⑩琴華会のみなさんありがとう、箏曲学習

他にも…

- ・地域のみなさんお手伝いありがとう、愛校作業
- ・自慢の伝統行事、いかだ大会
- ・地域のお兄ちゃんたちが格好よかった、持久走大会
- ・地域、PTA、子どもの力を存分に披露できた「運動大好きかごしまっ子」研究公開

10大と言っておきながら、どうしても絞りきれないくらいの1年でした。昨年度、開校150周年という大きな節目を迎え、新たな一步を踏み出した南界小として及第点をいただけるでしょうか。

保護者や地域の皆様には、本当にいつも温かく応援していただき、感謝しています。「地域あってこそその学校、学校あってこそその地域」を端的に表現している本校のキャッチフレーズの充実に向けて、さらに精進したいと思います。令和6年度、ありがとうございました。

<南界小キャッチフレーズ>

楽しい学校 元気な校区 地域と共に伸びる 南界小学校



3月26日(水)から4月6日(日)まで、春休みです。春休みは、修了式後ということもあり、気が緩みがちです。しかしながら、新しい学年の準備をする大変重要な時間です。規則正しい生活を送るように、各家庭で御指導ください。また、春の陽気のせい、不審者情報が多いのも春休み。帰宅時刻は午後5時30分。地域の方もお声かけをお願いします。